

物事を多面的にとらえ、まとまりのある英文を書く力を育成する学習指導の在り方
ー考えを広げ、整理し、記述を推敲する授業づくりを通してー

会津若松市立第五中学校 福島県教育センター 長期研究員 齋藤 崇

1 研究の趣旨

中学校学習指導要領解説外国語編では、「書くこと」領域において、まとまりのある文章を書くことができるようにすることや、社会的な話題に関して、自分が考えたことや感じたこと、その理由などを書くことができるようにすることが目標として設定された。英語科における見方を働かせ、社会や世界、他者との関わりから事象を捉えた上で、考えなどをその理由や根拠とともに記述する力を育てていく必要がある。

平成31年度全国学力・学習状況の調査結果によると、全国と比べた福島県の平均正答率は、英語を「書くこと」が「聞くこと」、「読むこと」に比べて最も低い。特に、自由英作文の無回答率が高く、書いて伝えることの力と意欲を高める指導が求められている。

以上のことから、生徒が様々な視点から事象を捉えることで考えを広げ、その考えを分かりやすく記述する力を育成したいと考え、研究を進めることとした。

なお、本研究においては、「まとまりのある英文」を「主張」「理由」「主張の言い換えや要約」のすべての要素を満たした英文と定義する。

2 研究の概要

(1) 【手立て1】考えを広げる対話活動の工夫

自分の主張の土台となる考えを生み出すには、題材の背景に関する多面的な知識を活性化させることが有効である。教師や教科書との対話により、①生じた経緯、②対極の立場からの事実、③現状に対する取組、④理解を深める新たな知識、といった視点から題材の事象を多面的に捉えさせる。その後、生徒同士の対話を通して、自分では気付かなかった視点や考えに出合わせることで、最初の考えをさらに広げることをねらう。

(2) 【手立て2】考えを整理する「構成ストック」*の活用

【手立て1】によって広がった考えを、初稿記述前にアウトラインとして英語で表現させる。「構成ストック」を基にしてこのアウトラインを吟味させることで、文章構成を意識して考えを整理させ、まとまりのある英文を記述するための見通しをもたせる。

*まとまりのある英文の文章構成の種類と、それを基に生徒が書いた英文のモデルを蓄積した生徒間の共有データ

(3) 【手立て3】推敲方法の自己決定と練り上げ

「構成ストック」を活用して初稿の見直しをさせることで、まとまりのある英文に必要な英語表現や構成に関する気付きを促す。これらの気付きを、第2稿に反映させるための学習方法について、生徒に自己決定させる。学習に必要な支援や情報を生徒自身に求めさせ、自分の方法とペースで推敲させることにより、まとまりのある英文の完成に向けた自己調整学習を展開させる。

3 成果と今後の課題

実践の前後に「書くこと」におけるライティングのパフォーマンステストを行い、「主張」「理由」「主張の言い換えや要約」を記述した生徒の割合と、表現した語彙数の変化を検証した。

(1) 研究の成果

「主張」は、実践の前後ともに98%だった（有意差無）。「理由」は70%から89%へ、「主張の言い換えや要約」は16%から58%へそれぞれ有意に増加した。「主張」「理由」の両方を記述した生徒の割合は68%から89%へ、3つすべての要素を記述した割合は16%から53%へ、それぞれ有意に増加した。語彙数の平均は21.9語から33.4語へ有意に増加した。

(2) 今後の課題

「主張の言い換えや要約」を記述した生徒の割合が58%である。また、3つの要素を含んだ、まとまりのある英文を書いた割合が53%にとどまっている。主張の言い換え方や要約の方法について、それらの具体例に数多く触れさせ、表現機会を継続的にもたせることがさらに必要である。